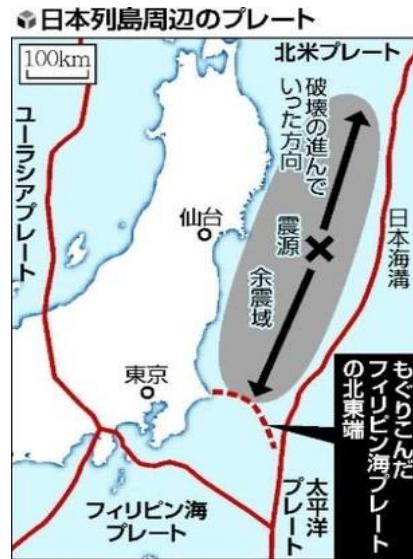


「平常時持ち出し品」

(201-1)

M8以上の東・南海大地震の発生確率がこの30年内で80数%だと言つのは、恐るべき数字なのだが、平和・安全ボケそして我欲・物欲にまみれたこの日本は無気味な程に落ち着いている・・・と案じていた所にM9という巨大地震が東日本を襲つた。



500kmに及び拡がつていったが、南下していった破壊は、房総沖にあるフイリッピン海プレートの北東端に遮られ、幸いにも紙一重で首都東京が破壊・水没を免れた・・・。

奇跡か? それとも首都壊滅の予兆なのか?

全てを失つた30万人近い被災者を見るにつけ、「非常時持ち出し品」に対する関心は否応無く高まりつつある。一方、関心の無い人は全く関心が無いままだ、我が家がそうだ。

僕はそれよりも、いつも頭から離れないのが「平常時持ち出し品」の事だ。何処に行くにもいつも身に着けているもの・・・僕の場合には「鍵」、「財布」、「携帯」・・・の三種である。幸いな事に定年を機に、40年

間吸っていた煙草を止めた為、煙草関連の持ち出し品が無くなつたのはとても助かっている。

鍵（玄関・車・自転車）、財布（お金、キヤッショカード、クレジットカード、E-T-Cカード、免許証、健康保険証）と携帯電話（電話、メール、時計、カレンダー、I-T-E、カメラ、ワンセグTV、ビデオ、ナビ、お財布携帯、固定電話からの転送、パソコンメールからの転送）・・・これだけの諸機能を持ち合わせていれば、何処に行つても不自由を感じる事はない。

これらの必需品は、夏・冬どんな服装をしていても、そして何処に行く時でも必携だから、三つとも服のポケットに収まらなければならぬ。会社勤めの頃の様にスーツや作業衣を着ていればポケットはいぐらもあるが、自由人になつてからは着る物も軽装になり、夏は半ズボンのポケットに「財布、鍵」を入れ、「携帯」はポロシャツの胸ポケット入れるしかない。これが結構の容量と重量になる。

これを何とか改善しようと、女性が持つているあの「ハンドバッグ」を身に付けてみようと思い、小さな肩掛けポーチ（レスポンサップ）を手に入れ、長時間の外出や、旅の時に利用している。このポーチ持参の折には三種の神器に加えるに小銭入、老眼鏡、筆記具+メモ帳、望遠デジカメ、洗面セット（歯磨き・歯間歯ブラシ・ハンカチ・ティッシュ・櫛）、をも収納出来るが・・・違和感は否めない。何とか改善

できないものか・・といつも考えている。

さて、まず「鍵」を軽量化したい。鍵をカード化或いはICチップ化するのは技術的には意外と簡単な事だらうと思う。一番良いのは携帯の無線機能を利用しての鍵の開閉である。問題は日本特有のセクシヨナリズム、住宅の鍵、車の鍵、携帯・・・の異業種間の調整が出来るかどうかだろう、しかも携帯機能を使えば鍵の盗難・紛失に対しても簡単に無線誘導によるロックが出来るのでとても安全になると思うのだが。・・・多分、今から20年は掛かるだろう。

次に「財布」だが、いつの間にか膨らんでしまった財布を少しでも軽量化しようと、キャッシングカード・クレジットカード類を整理しようとするとのだが、逆に増えるばかりだ（お金が増えるのではなく、カード類だけが増える）。財布の軽量化のため、携帯電話での「お財布携帯」を使い始めたが、未だまだ社会の基盤の方がそれに追いついていない、いつまでお金とカードを持ち歩かなければならぬのだろう。早く「国民-IDカード」一枚に収斂してくれないかと思う。一枚のカードに身分証・住民登録・パスポート・社会保障（年金・医療）、不動産（所有・登記）、納税、教育、諸申請・投票・バンキング、交通機関利用 等の情報を収めるのは今の技術では簡単な事ではないと思うが・・・。エストニアや韓国では見事なID化に成功して、国民は大変な利便を享有している。日本もやつと2015年秋を目指しての

国民—I・Dカード化計画が始ったようだが、税と社会保障業務に限られているようで、僕が期待している本格的なカード社会には未だ程遠い。

30年は待たねばならないだろうか？

「携帯電話」の技術はこの十数年で飛躍的に向上し、小型化・多機能化が図られており、僕の「」ときが考えるよりはるかに高度な機能が完成している。最終的にはもう少し「繋へ、繋らかへ」なってくれれば更に有り難い。

僕が描いている未来図はおそらく、僕の「鍵」「財布」「携帯」等の全ての機能が一枚の「小さなI・Cチップ」になってくれないかと言つ事だ。おでこに一枚貼つておきさえすれば何処に行くにも不自由無く、「平常時持ち出し品」というややこしい僕の悩みも無くなり、ひいては災害時の「非常時持ち出し品」として、大震災で全てを流れ、身一つで逃れてきた多くの避難民の皆さんに対する待遇も大幅に解決出来たのではないかと思う。

・・・あと50年は掛かりそうだ

尤もその頃になれば、車という移動手段も無くなり、家という不動産も無くなり、人間皆が宙に浮いたようなクラウドな空間の中でゆつたりと暮らしているのではないか・・・という絵が浮かんでくる。

・・・この絵はまさか日本沈没後の・・・?